

モリモト医薬・東邦HD

常温管理ワクチンで提携

モリモト医薬（大阪市西淀川区、盛本修司社長）は、医薬品卸大手の東邦ホールディングス（HD）と、常温管理が可能なワクチン製造技術の実用化と流通で資本業務提携した。東邦HDから出資を受け、2022年内にワクチン製造設備を本社工場へ導入する。研究開発を含めて計40億～50億円を投じ、容量10³リットルのバイアル瓶で年2000万本の生産体制を構築する。

モリモト医薬は常温・ナウイルスワクチン向管理できるワクチンを、けに早期の実用化を目的に製造する装置「連続凍結乾燥装置」を開発した。新型コロナのワクチン（イメ

阪市西淀川区）に2億5000万円出資を受けた。資金を研究開発に充てる。提携で東邦HDはモリモト医薬で製造したワクチンを医療機関などに提供する。モリモト医薬は凍結乾燥ワクチンについて、臨床試験用の製造設備を22年3月、商用設備は同年秋季に立ち上げる。医薬品製造品質管理基準（GMP）認証取得やワクチンの安全性・有効性の検証を進める。人材や資金など経営資源をワクチン事業に集中させ、これまで開発した服薬支援ゼリーなどの事業は、製造委託や譲渡を検討する。開発した連続凍結乾燥装置は、液体のワクチン製剤を真空管へスプレー状に噴霧し、凍結して粉末化する。装置内で連続的に乾燥させ、リアルタイムで粉末の温度や水分を管理することで品質を均一化し、効率的に生産できる。凍結管理する液体ワクチンと同等の生産効率を実現し、輸送や保管時の冷凍設備などが不要になる。



末ワクチン（イメージ）

（GMP）認証取得やワクチンの安全性・有効性の検証を進める。人材や資金など経営資源をワクチン事業に集中させ、これまで開発した服薬支援ゼリーなどの事業は、製造委託や譲渡を検討する。開発した連続凍結乾燥装置は、液体のワクチン製剤を真空管へスプレー状に噴霧し、凍結して粉末化する。装置内で連続的に乾燥させ、リアルタイムで粉末の温度や水分を管理することで品質を均一化し、効率的に生産できる。凍結管理する液体ワクチンと同等の生産効率を実現し、輸送や保管時の冷凍設備などが不要になる。